



だより



R5.11.14 Vol.26

のびた影を～♪

朝、大体、同じくらいの時間に見回りがてら、登校指導に出ています。学校前の道路を歩いていると向こう側の歩道を歩いていた男の子が「校長先生の頭踏んだ！」と、はしゃいでいました。「うん？」を思って視線をそちらに向けると、私の影が、なんと道路向こうまで伸びていました。「あ～！もうそんな季節なんだ！」と影の長さに季節の移ろいを感じました。直感的にそれに気付く子供ってすごいですよね。そんなことを思いながら歩いていると「♪のびた影を～舗道に並べ～夕闇の中を君と歩いている～♪」中島美嘉さんの歌が、頭の中で流れ始めました。「♪のびた影を～歩道に落とし～朝焼けの中で頭踏まれている～♪」お粗末様でした。(笑)

誰？

子A「校長先生の名前って何でしたっけ？」

子B「えー！Aちゃん！知らんの？？まさかずよ！」

私「自分、まさとっす…。」

あっちらへんって、どっちらへん？

子供と話している時のこと。

子：「うちのお父さん、あっちらへんで働きよる。」

私：「あっちらへんってどっちらへん？」

子：「あっちらへん！」

私：「八幡浜とか明浜とか三瓶とか！」

子：「う～ん。分かりません…。」

分からないからだめ！という話ではありません。親の働きかけ次第で、子供の世界はぐっと広がります。今、学校では各教室に日本地図と世界地図を掲示しています。環境教育の一環ですが、土地勘をつけさせたいねらいもあります。

交通機関の発達で、面だった移動が線になり、最早、点と点の移動です。車の中ではスマホや携帯ゲームをいじっている時間の方が多いのでは。ある意味、時代です。が、一言、声をかけることで子供の意識は内から外へと向きます。大人として、教師として、親として、やれること考えたいですね。

四方山話令和5年度 ver. 其の二十六(独り言)

出勤時、八幡浜から石城に向かう途中、双岩の夫婦岩を通ります。この季節になると、その辺りの紅葉が目を惹き始めます。父の生前、通院で卯之町に送迎していたことがありました。(数えるほどですが…)この季節の夫婦岩を通ると、「綺麗やのお。」と助手席で独り言のように呟いていた父のことを思い出します。私が小学生の頃、父は仕事で愛南町のほうに出向いていました。仕事から帰ってくると「あそこのラーメンは美味しい！」と母によく話していました。当時からラーメンが大好きだった私は、『行ってみたいなあ。』(「一緒に行くか?」と父は言ってくれていたのですが、長い距離を乗ると車酔いしていた私は、結局、行くようにはなりません。自分)自分が車を運転できる年齢になると、そちら方面に出かけることもありました。『そういや、小さい頃、父が言ってたラーメン屋さんってどこだろう?』いつもそう思い、『今度聞こう!で、行ってみよう!』といつも思いながら、いつの間にか何年も過ぎ、結局聞けずじまいでした。そんな話をしていた父の年齢を悠に越えてしまった今も、『聞いときゃよかった。』そんな思いが、どこか心の片隅にささくれています。

保護者の皆さんのご両親は、まだまだご健在の方が多くいのではないのでしょうか。私が言うことではありませんが、たくさん話をしてほしいなあと思います。父が「綺麗やのお。」と呟いていた独り言。もしかすると、独り言だと私が勝手に思い込んでいただけかもしれません。「ほんと！綺麗やな。」なぜその一言が返せなかったのでしょうか。もしかしたら、そこからラーメン屋さんの話になっていたかもしれません。

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ

俵万智さんの歌集にあった短歌です。